



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

5. 全学補講 (2002年度・2003年度前学期)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 慎吾 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3415

5. 全学補講

留学生センター講師 橋本慎吾

1. 2002年度前期

1.1. 前年度の問題点

前年度、つまり2001年度はコース改編を行なった。①5レベルあった文法クラスを4レベルに編成しなおした、②コースを通年にした、③主に初級クラスのプレメンを免除し、自動的に上に進めるシステムにした、④午後に「特演」クラスを開講した、以上の4点である。

この4つの改編はコース運営にうまく機能したと思う。また学生側の実情にも合っていたと考えられる。2002年度もこの改編を引き継いだ形で行なうこととした。

1.2. 前期 スケジュール

1.2.1. 日程と時間割

2002年度前期は以下の日程で行なった。今年度から、本学の学年歴に合わせ、7月中にコースを終了することとなったが、実際には8月第1週までかかった。

4月5日(金) ガイダンス・プレイスメントテスト

4月15日(月) 授業開始

8月2日(金) 授業終了

[時間割]

	A	初級特別	B	C	D	専門日本語	特演
月	1 [富田]		2 [河地]			2 [伊藤]	3 [河地] 作文
火	2 [六郷]		2 [杉山]	1 [六郷]			3 [今井田] ロールプレイ
水		1 [杉山]	2 [富田]	2 [河地]	1 [伊藤]		
木	2 [三輪]		2 [野原]	1 [郷丸]	1 [河地]	2 [杉山]	3 [杉山] 視聴覚
金	1 [野原]	2 [六郷]			1 [六郷]		3 [加藤] 読解

表中の数字は時限を示す。

1時間目：8:50～10:20 2時間目：10:30～12:00 3時間目：13:00～14:30

また、医学部補講の時間割は以下の通りである。

	医学部 A	医学部 B	医学部 C
月			
火			4 [橋本] ビデオ演習
水		3 [伊藤] 演習 1	4 [伊藤] 文法演習
木	4 [郷丸] 文法 1		
金	3 [藤江] 文法 2	4 [藤江] 演習 2	

表中の数字は時限を示す。3 時間目：13:00～14:30 4 時間目：14:40～16:10

1.3. 授業内容について

1.3.1. 主クラス (A～D クラス)

A クラス (未習者) は文字学習の後『みんなの日本語 I』を、B クラス (初級後半) は『みんなの日本語 II』を、それぞれ半年で学ぶ。1 課 2 コマペースで進める。ちなみに、日本語研修コース A クラスではこの 2 冊を半年間で終了する。つまり、補講コースの初級レベルは、研修コースのちょうど 2 倍の時間をかけて終了することになる。また補講コースの A・B クラスは週 4 コマである。このスピードと総コマ数の違いが、即ちコースの違いであり、学生は自身のニーズに合わせて選択ができる。例えば研究に忙しい学生は補講を受講する。

昨年度までの問題として、B クラスがスケジュールの関係で教科書の最後まで終わらないことがあり、例えば日本語研修コースの既習者クラスの学内公募に応募する際、初級終了を前提としているため、未習個所があり、プレイスメントの結果受講が認められないケースが生じる可能性が出てきた。そこで今期は、スケジュールを見直し、教科書を最後まで学習できるよう半期計画を立てた。

C クラス (初中級) は『中級から学ぶ日本語』を 1 課 5 コマペースで、D クラス (中級) は『中級から上級への日本語』を 1 ユニット 9 コマペースで進めていく。両クラスとも、教科書を通年で使用するになっている。

1.3.2. 特別クラスについて

専門日本語、初級特別の内容については従来と大きな変化はないが、初級特別については、昨年度完成した留学生センターオリジナルの会話教材を使用している。

1.3.3. 特演について

特演は、基本的に 1 コマ 1 技能で行なっていく。学生は、ニーズに合わせて選択受講することができる。

- 月曜日：作文 (目的・機能別の作文演習)
- 火曜日：ロールプレイ (機能別の会話練習)
- 水曜日：視聴覚ベースの会話
- 金曜日：読解

1.3.4. 医学部補講について

医学部補講は3レベルに分かれており、例年医学部Aは未習者対象であるが、今期は未習者の登録がなかったので、昨年度の医学部A～Cをそのままスライドさせて授業を行なった。医学部Aは『みんなの日本語II』、医学部Bは『日本語表現文型500』『日本語の中級』などを複合的に用いた総合演習、医学部Cは『日本語表現文型500』をベースにした文法演習及びTV番組を使ったビデオ演習を行なった。医学部Cのビデオ演習では、最近医学部の授業にマナーや言葉づかいの授業が取り入れられてきたという話題がちょうど放送されていたので、「医学とことば」「患者との接し方」などについて議論することができた。

2. 2002年度後期

2001年度から、補講コースは基本的に通年で授業を進めていくことにしたので、後期は前期を引き次ぐ形で開講することになる。この方法により、プレースメントも容易になり、学生にとっては毎回プレースメントテストを受験する負担が軽減された。

2.1. 日程と時間割

- 10月4日(金) ガイダンス・プレースメントテスト
- 10月15日(月) 授業開始
- 12月21日(土)～1月13日(月) 冬期休業
- 3月13日(木) 授業終了

[時間割]

	A	初級特別	B	C	D	専門日本語	特演
月	1 [三輪]	2 [富田]		2 [三輪]	2 [伊藤]	1 [河合]	4 [宮谷] 聴解
火	2 [三輪]		1 [六郷]	2 [六郷]		1 [伊藤]	3 [今井田] ロールプレイ
水	2 [富田]		1 [河地]		2 [河地]		3 [河地] 作文
木			2 [野原]	2 [郷丸]			
金	1 [野原]	2 [六郷]	2 [野原]		1 [六郷]		3 [加藤] 読解

表中の数字については1.2.1参照のこと。

[医学部補講 時間割]

	医学部 A	医学部 B	医学部 C
月			4 [河合] ビデオ演習
火			
水		3 [伊藤] 演習 1	4 [伊藤] 文法演習
木	4 [郷丸] 文法 1		
金	3 [藤江] 文法 2	4 [藤江] 演習 2	

2.2. 授業内容について

主クラスである A～D は、これまで半期ごとにプレイズメントテストをしてクラスを組んでいたが、昨年度から、前期 A クラスだった学生は B クラスへ、B クラスだった学生は C クラスへ、自動的に進めるようにプレイズメントの方法を変更した。C・D クラスについては、内容的には前期の続きを行なうので、学生はこのまま C クラスに残るか、プレメンを受けて D クラスに移るかの選択ができるようにした。この変更により、昨年度はスムーズにプレイズメントができたので、今年度も同様の形式で行なう予定にしていた。

ところが今期は B・C クラスで前期からの継続受講者が少なかったため、通年での授業を実施することは難しいと判断し、この 2 クラスについては前記の続きではなく、新たに授業計画を立てることにした。A クラスは未習者クラスなので変更なく、文字学習の後『みんなの日本語 I』を 1 課 2 コマペースで進み、適宜復習・聴解練習を入れるという従来どおりの進め方で行なった。B クラスは、今期は新規の学生が多く、また全体的に活用が十分習得されていないと判断し、『みんなの日本語 I』の第 14 課（テ形）から実施することにした。C クラスの場合は新規の学生ばかりだったので、『中級で学ぶ日本語』を 1 課から行なうことにした。D クラスは前期からの継続学生が多いので、『中級から上級への日本語』をユニット 6 から 1 課 8 コマペースで進めることにした。

初級特別、専門日本語、特演は前期に準じる。特演の「聴解」は前期にはなかった科目であるが、中級学習者を対象とした聴解・会話教材を用いた授業を行なった。

医学部は、前期に補講 A クラスを受講していた学生が入ってきたので、医学部 A をその学生を対象とした初級文法クラスにし、柳戸キャンパスの B クラスと同じく『みんなの日本語 I』の第 14 課からすすめることにした。医学部 B・C については前期に準じる内容であった。

3. 2003 年度前期

3.1. 前期 スケジュール

3.1.1. 日程と時間割

2002 年度前期は以下の日程で行なった。

4 月 4 日 (金) ガイダンス・プレイスメントテスト

4 月 14 日 (月) 授業開始

7 月 31 日 (木) 授業終了

[時間割]

	A	初級特別	B	C	D	専門日本語	その他
月	2 [野原]	1 [河地]	1 [三輪実]	2 [河地]		2 [河合]	3 [富田] 作文
火	1 [六郷]		1 [藤江]		2 [六郷]		
水	2 [加藤]		1 [富田]		2 [富田]	1 [小寺]	3 [三輪郁] 読解
木	1 [中村]			2 [野原]	2 [中村]		3 [宮谷] 視聴覚
金		2 [六郷]	2 [三輪実]	1 [六郷]			3 [今井田] 文系語彙

[医学部補講 時間割]

	医学部 A	医学部 B	医学部 C
月	4 [野原] 文法 1		
火		3 [河合] 演習 1	4 [河合] ビデオ演習
水		4 [小寺] 演習 2	
木			
金	4 [藤江] 文法 2		3 [小寺] 読解・文型

3.2. 授業内容について

プレイスメントテストを実施し、クラス分けを行なった。主クラス (A ~ D) の内容については 2002 年度前期に準じるので、本章 1.3.1 を参照願いたい。

これまでと異なる状況として、日研生プログラム (第 2 章参照) の学生が 1 名参加している点が挙げられる。これは、第 2 期日研生プログラムの受講生のうち、1 名の日本語力が他の学生より低いため、当初から日本語教育のみ別メニューで行なってきたもので、第 2 期の後期 (つまり今期) はそのうちの 1 部を補講の D クラス及び専門日本語で担当することとなった。日研生プログラムでは成績を算出する必要があり、この学生にのみ課題を与え、出席率、授業態度などを加味した成績を出した。

初級特別、専門日本語、特演は2002年度後期に準じる内容となった。

医学部は、未習者の受講生が2名新規で入ってきたので、医学部Aは『みんなの日本語 I』から行なうことにした。医学部B・Cについては2002年度に準じる内容となっているが、医学部Cでは学生の要望により、医学関連の文章を読む読解演習を新たに導入した。

4. 問題点と今後の課題

以上、2002年度前後期及び2003年度前期の日本語補講について報告した。

現在、留学生センターは、来る独立法人化に向け、センターの業務を全学レベルで整えるべく準備を進めている。その中に、日本語コースの整備がある。概して言うと、これまで別々に運営されていた日本語コースを、センターのコースとして体系的に行なうべく整備を進めている。この整備が進めば、例えば2003年度前期に生じた事態、つまり日研究生プログラムの学生の日本語教育を補講コースで行なうといった事態により適切に対処できると思われる。コースの壁を全廃することは不可能にしる、それぞれの日本語コースにおけるもう少し共通した形での運営が必要であることはこれまでもいわれてきた。例えば補講コースにはある中上級レベルの日本語教育が、日本語研修コース（第1章参照）では常時開講されるわけではないといった「いびつさ」「不統一感」を解消する必要があるわけである。

しかしこの整備により、補講コースは大きな転換を迫られる。それは受講生の身分についての問題である。これまでは補講という独立した運営形態で、留学生の家族や研究者を受け入れるなどの「サービス」を行なってきたが、今後日研究生プログラムや、交換留学生などが参加し、成績を算出する必要性が生じてきた場合など、正規の留学生のみを受け入れる形態で運営する必要がある（その場合はもはや「補講」とは呼べないが）。

歴史的に最も古く、多くの状況に対処しながら進んできた「補講」という形態が、今後大学の1コースとして位置づけられた場合の方向性について、真剣に議論される時期に来ていると思う。